

P・M・Aクラブ

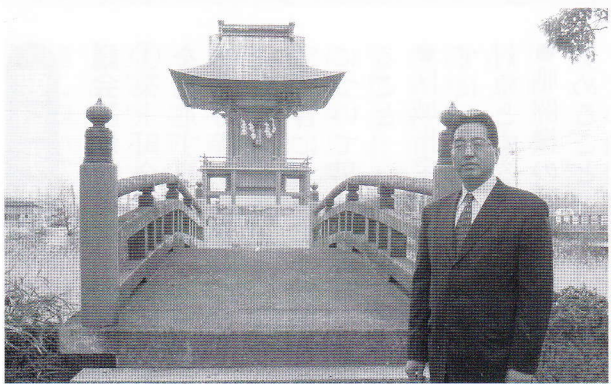
Positive.Mental.Attitude

✉ ptcle@giga.ocn.ne.jp

しおた文男後援会

発行日/平成20年4月
住所/築上郡築上町大字椎田1671-1
発行責任者/高島 虎止
TEL/0930-57-5555

Vol.14



今昔・中津街道の取材で訪れた和間神社浮殿にて



4月の新年度を迎えて 新たな気持ちで町政に 取り組んでまいります。

ごあいさつ

春暖の候、いよいよ御隆盛のことと御喜び申し上げます。日頃は格別の御引立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

を見据えた対策を行政に対し具体的に案件として示していくことが必要なことだと強く感ずるものであります。

さて、3月定例議会も閉会し、(議会内容につきましては次号にてご報告予定)4月から新年度がスタートいたしますが、築上町におきましては財政問題が特に重要なことになるところです。歳入、歳出のバランスを考えた時、いかに無駄を省きその上で住民主体の行政サービスを充実させるかを考えていかねばなりません。地方行政がどこも厳しい状況の中、築上町も例外ではありませんが、補助金、交付金の削減や税収入の減少等の財政基盤が不安定な中、ガソリンや食品の値上げと住民生活にとっても明るい材料が見当たりません。税負担も合併後は逆に増えつつあります。このような現状を考えますと行政への提言を議会においてなすべき町会議員の責務はますます重要になってきます。行政チェックと住民代表としての皆様のご意見を代弁するだけでなく、町議として築上町の将来

補助金等に関しても国とのパイプがやはり重要になってくると思います。先般の防衛省への陳情においても地元選出の武田良太衆議院議員を通じて防衛大臣と直接、大臣室での要望事項の話し合いの場を実現させていただきました。築城基地対策は築上町におきましてはさけて通れない現実であります。私も今期、基地対策副委員長として基地に関する色々な問題を防衛省と接渉しておりますが、国の防衛に關しては防衛機密という壁があり難しい面もありますが、地元住民が安心して暮らせることを第一に考えた対策を国にお願いすることが肝要だと常に思っております。

今年になって初めての発行となります後援会会報ですが、本年も皆様方の変らぬご指導ご支援を賜りますようお願いながら紙面をお借りしてお願い申し上げます。

しおた文男

要望書を防衛大臣に提出



石破防衛大臣と基地対策副委員長しおた議員

基地対策副委員長のしおた町議から武田良太衆議院議員への強い働きかけにより石破防衛大臣と直接面談が実現しました。

2月14日、町執行部4名、議会基地対策4名、地元椎田地区、築城地区基地対策委員8名が防衛省において国防部長代理である武田良太衆議院議員同席のもとで石破防衛大臣へ築城基地対策についての要望を陳情致しました。

要望事項

議会基地対策特別委員会要望
①築上町全域の騒音防止対策を推進すること

住宅防音工事等周辺対策の充実を強化を図ること。特に住宅防音については以下の項目について早急に対策を実施すること。

●区域指定告示以降の住宅全てについて、防音工事の助成対象とすること。

●戦闘機の瞬時の防音対策に努めること。

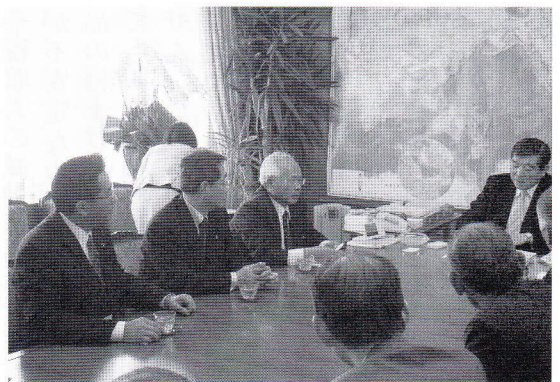
●太陽光発電システム事業と同時に深夜電力を利用した蓄電システムを検討し早期に実現すること。

②基地運用に関し、安全確保を徹底し万一事故が発生した場合、速やかに情報提供すること。

③基地を抱える自治体や基地対策委員会に適切な情報を提供すること。

④周辺住民の騒音被害軽減のため、土曜日・日曜日・日本の祝日・盆・年末年始・及び入学試験時期等特別な日における飛行、エンジンテストを行わないこと。

⑤飛行場運用にあたり、飛行する時間帯、訓練、エンジンテスト等の時間帯の協議を行い協定書を作成すること。



町要望

①本町住民の要望に対し、迅速かつ柔軟に対応すること。

②本町全域を防音工事の対象区域とすること。

③告示後に建設した住宅の防音工事を実施すること。

④本町農業の振興及び資源循環型社会推進のため、築城基地で消費する米を汚泥、尿由来液肥で栽培した「シヤンシヤン米環」を使うこと。

⑤再編交付金使途について、町に裁量権を持たせ柔軟に対応すること。

⑥再編交付金の助成対象事業を行える地域を町内全域とすること。

地元基地対策委員会要望

①カメラミッションに伴う区域の見直し及び補償について

カメラミッションの標的は現在、滑走路の先端付近に設定しており、訓練はこの標的に向かって海岸付近を飛行しています。このため、進入表面下は非常に騒音がうるさく、近隣住民から苦情が多く出ています。カメラミッションの訓練を他の場所(海上等)で実施するか、または訓練の特殊性を考慮して、進入表面下の防音区域の見直し及び農耕阻害等の補償を要望します。

②外郭防音工事の全面实施及び予算増額について

外郭防音工事は現在、85W以上の区域内の住宅を対象としています。残室についても使用しているわけですので騒音の区域による制約を撤廃して全世帯外郭防音工事を実施するとともに、それに伴う予算の増額を要望します。

③住宅防音空調機器・建具復旧及び補修について

空調機器の復旧については、現在、設置後10年以上経過した機器を対象に1割を自己負担として実施していますが、設置の原因が航空機騒音にある以上、経過年数を設けず復旧に係る経費の全額を国において負担するよう要望します。建具の復旧については、現在、防音サッシだけが復旧の対象

基地対策特集 築城基地対策の要

平成4年以降の住宅防音工事を
 行うよう、しおた議員が活発
 に意見を述べる。



となつていますが、防音工
 事と設置した扉やふすまにつ
 いても復旧工事を実施するよう
 要望します。

空調機器、建具の補修につ
 いては、現在、自己負担となつ
 ています。設置の原因が航空
 機騒音にある以上、補修に係
 る経費の全額を国において負
 担するよう要望します。

④住宅防音区域の見直し及び
 拡大について

現在、築上町内を騒音の大き
 さで、95Wから75W区域とそ
 れ以外の区域に道路や水路等
 線一本で区切っており、その
 多くが自治会の中を分断して
 います。そのため自治会の中
 で不満の声が多く出ています。
 F2の配備に伴い騒音測定を
 行い、その結果により区域の
 見直しをすると聞いています
 が、今回の米軍再編による訓
 練移転及び緊急時の使用が行
 われれば、より大きな騒音が
 予想されますので、騒音測定
 の結果に町及び自治会長並び
 に基地対策委員会の意見を聞
 き、米軍再編による騒音の増
 大を考慮して線引きを行うと
 ともに町内全域を防音区域に
 指定するよう要望します。

⑤告示後住宅の住宅防音の実
 施について

基地の設置や運用に起因する

航空機騒音等による障害を緩
 和し基地周辺の生活環境の整
 備をするため、住宅防音工事
 を実施しているにも関わらず
 告示後に新築した住宅の防音
 工事を実施しないのは納得で
 きません。

騒音のうるさい区域内に住宅
 を新築する人は、区域内に土
 地があり分家して家を建てる
 とか、親の面倒を見るために
 近くに家を建てる時、Uター
 ンしてふるさとに家を建て
 るとか、それなりの理由があ
 るわけですから告示後であつ
 ても防音工事を実施するよう
 要望します。

⑥移転補修費の予算増額につ
 いて

家屋を伴う移転については、
 希望に沿った移転措置ができ
 ているようですが、農地等の
 移転希望者については、長い
 人は10年近く待っている状
 況であります。移転を希望す
 る農地等は移転に伴うものは勿
 論であるが、国有地の中にも
 点在するため、昼間でも人通
 りが少なく樹木が植えている
 ので見通しも悪く農作業に危
 険を感じる場所であり、また
 受益者が少なくなつて農道、
 水路等の維持管理もできなく
 なつていきますので、早急に移
 転ができるよう予算の増額を

要望します。

⑦築城基地拡張計画の白紙撤
 回について

築城基地拡張計画が地元住民
 への十分な説明もなく進めら
 れていること、内容が誘導路
 の延長・燃料タンクの増設と
 基地機能の拡大であり、到底
 納得出来るものではありません。
 よつて、計画を白紙撤回す
 るよう要望します。

紙面の都合上項目のみ掲載致します。

●テレビ受信料減免区域の拡大に
 ついて

●太陽光発電システム事業の早期
 実施について

●移転跡地周辺の環境保全について

●再編交付金の使い道について

文男トピックス

3月4日、読売新聞出版社
 追田所長から今年も新
 一年生へ防犯ベルと下
 敷きを寄付。昨年から、
 しおた議員を通じ行わ
 れています。



今昔・中津街道

失意泰然

物事が上手くいかなかったり、窮地に立たされた時こそ慌てず落ち着いて物事に動じず冷静に時期を見極める。



復元した
奉納大鏡



僧形八幡神像(写真左)

勅使街道(ちよくしかいどう) 銅鏡浪漫(どうきょうらまん)

私達の地域はかつて、豊前国と呼ばれ豊国(とよのくに)とも呼ばれていたことは皆様もご存知のことと思います。今回は中津街道前の歴史、奈良時代に戻りこの豊前国は一つの国であったその当時の文化、国の決まりごと、連携や繋がりを書いてみたいと思います。国を一つに結びつける豊前国最大の文化イベント祭礼行事について探求してみました。まず豊前国とは企救郡(北九州)・田河郡(田川)・京都郡(仲津郡(みやこ町)・築城郡(築上町)・上毛郡(上毛町)・下毛郡(中津市)・宇佐郡の八つの郡が豊前国と呼ばれます。現在の福岡

県と大分県をまたいでおり当時、田河郡(香春町)から勅使を迎えて宇佐八幡宮まで銅鏡を奉納したといわれます。少し話を戻して養老時代、放生会(ほうじょうえ)と言う行事があり、放生会とは、字の通り生き物を放ち供養する、仏教会では捕らえた生き物を放つ事によって人々が行った罪・殺生から救われると伝えられていたそうです。養老三年(七一九年)南九州の隼人の反乱が起こり翌年大和朝廷が反乱を鎮めようと八幡神に祈願すると八幡神自らが出かけて降伏させようと豊前国守宇努首男(うのとのかみ)に(ひと)が將軍となり八幡宮の祈宜や僧侶も動員。隼人は鎮圧され、隼人の首を凶首塚に葬りさらに百体社を創り隼人の霊を慰めました。その後豊前国は凶作と悪気の病に見舞われ「隼人のたたり」といわれ、養老七年後(七二五年)神仏習合を成し遂げた法蓮(ほうれん)という僧侶のちに豊前国最大の山岳修験霊山の彦山の開祖が放生会を行い民衆を救ったと伝えられています。放生会は四年から六年措きに行われ享保八年(一七二三年)を最後に途絶えたとのことです。現在でも全国の地で放生会というのを聞いたことがあると思います、この放生会の始まりは豊前国宇佐八幡宮が始まりであろうと言われています。

豊前国での放生会の行幸(内容)は、第一は宇佐神社から和間神社浮殿の行幸と第二は銅鏡を宇佐宮に収める大鏡奉納行幸といつて勅使が現在の田川郡香春町の古宮八幡宮に依頼し清祀殿で鑄造した銅鏡を神輿に乗せ古宮八幡宮から行橋の豊日別宮、それからみやこ町の惣社八幡社から若宮八幡社、築上町の金富神社から豊前市の大富神社、中津市の高瀬八幡社から宇佐市の大根社から百体社から宇佐神宮の行幸と合流して和間神社浮殿へ奉納されたといわれています。このルートを勅使街道と呼んでいました。そして第三に、隼人の霊を慰めようと、上毛郡の古表八幡と下毛郡の古要社は船で海上行幸を行い蜷貝(にながい)を和間の浜沖に撒いたそうです。しかし明治に六郡が福岡県に二郡が大分県に編入しかつての人々の文化交流は次第に薄れてまいりました。現在では各寺院で個々に行幸を行っています。築上町の金富神社は、行幸に立ち寄った場所ですが、当時の金富神社は現在の椎田小学校のグラウンドにあったそうです。また現在放生会の復元と題し神輿の担ぎ子によって当時の細男の舞を再現しています。ここで宇佐八幡宮と築上町が大きく関わったことをひとつ、宇佐八幡宮には一の御殿・二の御殿・三の御殿とあり、その

一の御殿の建造時の木材は楠木神社から楠の木が(旧築城町本庄)使われたそうです。平成十六年四月当時の椎田町の有志が立ち上がり、約三〇〇年途絶えた大鏡奉納行幸と題し実行委員会を設立し歴史的背景を調べ当時の豊前国として復元する方向で活動し、予算はゼロからのスタート近隣地域また県境を越え賛同を求める活動を致しました。その中でなぜ椎田町が中心に企画を行うのかと様々な罵声まで飛び出す始末。苦難を乗り越え、唯一予算が(財)地域創造宝くじ助成事業から予算を頂き平成十八年二月にどうにか念願のシンポジウムが開催されました。今後、復元に向けて県境をまたいで企画、予算獲得も必要ですが、文化・歴史を通じ、人と人との繋がりを大切にしながら銅鏡浪漫を末永く語り続けていける：そんな町並が築けたらと思うばかりです。

編集後記

国と地方との関係について考えると我が築上町においては基地があることよって特にその影響が深いと今回の防衛省の陳情で実感いたしました。また、格差社会といわれる昨今、等しく住民が豊かさを享受できるように地方行政を進めていかねばと思っています。(S)